

「真の愛と偽りの愛」

皆さん、こんにちは。

きょうは、「真の愛と偽りの愛」という題目で、説教をいたします。

はじめに、聖書を拝読します。

愛は寛容であり、愛は情（なさけ）深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない、不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。不義を喜ばないで真理を喜ぶ。

そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。

愛はいつまでも絶えることがない。

（『新約聖書』コリント人への第一の手紙 第 13 章 4～8 節）

愛とは

きょうは、愛について学んでみたいと思います。とても深く、大切なテーマですね。

「愛とは何か？」と聞かれると、皆さんは何と答えますか？ おそらく人によってその答えは様々なのではないかと思います。冒頭で拝読した聖書の言葉も、愛がどのような要素を持つものなのかを教えてください。

愛について、次のように表現した人がいます。

ロシアの文豪、トルストイは、「愛は惜しみなく与える」と言いました。愛とは与えることだ、ということです。

また、日本の大正時代の作家であった有島武郎（ありしまたけお）は、「愛は惜しみなく奪う」と言いました。愛というのは奪うことだということです。

愛とは与えるものだ、いや、愛とは奪うものだ、と、愛についてまったく真逆のことを表現しているわけです。興味深いですね。

同じ愛という言葉なのに、まったく逆の意味で表現されるほど、愛の捉え方は難しいということが分かります。

皆さんも、愛の言葉やその概念を、普段の生活の中で言ったり考えたりすることがあると思いますが、その時に使っている愛が、一体どんな愛なのかを、明確に知っておくことが大切ですね。

真の愛と偽りの愛

真のお父様は、愛について次のように教えてくださっています。

真の愛の本質は、受けようという愛ではなく、人のために、全体のために先に与え、「ために生きよう」という愛です。与えても、与えたということすら記憶せず、絶えず与える愛です。喜んで与える愛です。母親が赤ちゃんを胸に抱いてお乳を飲ませる、喜びと愛の心情です。子供が父母に孝行して喜びを感じる、そのような犠牲的愛です。

（『平和神経』127～128 ページ、「平和のメッセージ 7」より）

このように、お父様は、愛は与えるものであり、ために生きようとするのだと仰っています。

私たちが捉える本当の愛とは、与える愛だということですね。

ではなぜ、先ほどのように、奪う愛というものが存在するのでしょうか？ それは、人間始祖が墮落し、人類が神様のもとから離れてしまったがゆえに、間違った愛がこの世の中に混ざり合うようになってしまったんですね。

お父様はみ言の中で次のように仰っています。

不幸にも、人間始祖アダムとエバの墮落により、神様が創造とともに理想とされた真の家庭は実現されませんでした。エデンの園において、エバは、蛇に化けた天使長に誘惑され、アダムは、エバの誘惑に勝つことができず、利己的な偽りの愛をこの世の中に植えてしまいました。このように、人類の罪と不幸は、人間始祖アダムとエバが、サタンを動機として結んだ不倫の愛の結果に由来しているのです。

（『後天時代と真の愛の絶対価値』274 ページ、「真の心情革命と真の解放・釈放時代開門」第十回「安侍日」、2004 年 7 月 16 日）

つまり、愛には真の愛と偽りの愛とがあるということです。それが私たちの世の中で混同して愛として使われていて、何が本当の愛なのか分からなくなっている、というのです。

それでは、真の愛と偽りの愛が何なのかを明確にしておきたいと思います。

真の愛とは、相手のために自分を犠牲にする愛です。真の愛は、より与えようとする愛です。

偽りの愛とは、自分のために相手を犠牲にする愛です。偽りの愛は、より得ようとする愛です。

さらに具体的に言うと、真の愛は、利他的であり、自己犠牲であり、見返りを求めず、無償であり、無条件であり、変わらないものであり、永遠に続くものです。

反対に、偽りの愛は、利己的であり、自己主張するものであり、要求するものであり、不平不満が伴っていて、条件付きであり、期限付きであり、一時的なものです。

このように見ると、真の愛と偽りの愛は、その性質がまったく反対だということが分かりますね。

男女の愛の二面性

愛には家族や友人に向ける愛もありますが、男女の愛というのが一般的にもよく描かれるし、関心の高いものではないでしょうか。

真の愛と偽りの愛が、男女の愛となった場合には、どうなるのでしょうか？ もう想像がつくのではないかと思います、次のような状態になっていきます。

真の愛の場合は、相手のために思い、一途で一对一のみの関係であり、お互いの心と体が伴い大切にし合う関係になります。

しかし、偽りの愛の場合は、相手のためと言いながら実は自分の感情が中心であり、複数の異性に向かう浮気性のものであり、また性愛が先行してしまいます。

たとえば、気になる異性から、「あなたのことが気になる」、「もっとあなたのことを知りたい」という言葉を言われたとしたら、嬉しく感じるかもしれません。しかし、その本質は、自分の感情を中心として、相手を自分のものにしたい、という思いでいる言葉かもしれません。

世の中の愛が真の愛なのか、偽りの愛なのか、見極めることが大切です。

どうでしょうか？ このように愛のことを捉えてみると、愛についてよく学ばなければいけないということを感じると思います。

愛は諸刃の剣です。そして、幸福と不幸の源であることが分かります。

真の愛と偽りの愛を見極め、自分自身は真の愛を持って大切な人たちとの関係を築いていけるようになることが大切です。

真の愛の主人になる

それでは、そのような真の愛の主人になるには、どうしたら良いのでしょうか？

それには、神様と真の父母様について学ぶことが大切です。真の愛の主人は神様であり、その真の愛を、神様の子女である私たち人間が相続して、真の愛の主人になっていくことができたはずでした。

しかし、墮落によって神様との親子関係が切れて、真の愛を相続することができなくなってしまったのです。真の父母様は、その原因を解き明かし、元に戻る方法を教えてくださいました。その闘いと努力が、私たちがなすべきことです。

お父様は次のように教えてくださっています。

墮落は偽りの愛によって起きたのです。「私」の一身はサタンの愛の結集体であり、生命の結集体であり、血統の結集体です。それを取り返すのは大変なことです。ですから神様も、数千万年の歴史を費やしてきたのです。救済は、そんなにも難しいということが分からないといけないのです。宗教生活の一、二年でもって、救済を完成するという思いを持つ者は泥棒です。神様は今まで、真の父母、真の子供を持ったことはありません。真の女、真の子供がいないのです。それなのに、自分が統一教会で、一、二年ですべて成そうというのは泥棒です。生涯かけて、何代かけても続けなければならない、根深い歴史が背後に潜んでいることを忘れてはなりません。

（『文鮮明先生の日本語による御言集 特別編 1』71 ページ、真のお父様「真の自分を探しましょう」、1993 年 12 月 19 日、済州国際研修院）

偽りの愛を退けて、真の愛で生きる自分になること、そしてこの世の中で真っ直ぐに生きていくことは簡単なことではありませんが、ぜひ兄弟姉妹で感じていることを分かち合いながら、共に頑張っていきましょう。

最後に、もう一つみ言を紹介して、説教を終わります。

困った時には手を差し伸べ

苦しい時には励まし

嬉しい時には

互いに手を取り合って喜ぶ

そういう人間関係を築きなさい。

あなた方が互いに

愛し合い、高め合う時

そこに神の国が造られるのです。

（『こころの四季』11 ページ「愛のことば」）

きょうは、「真の愛と偽りの愛」という題目で、お話ししました。

以上で説教を終わります。ありがとうございました。